

新島学園短期大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学科	キャリアデザイン学科	職位・氏名	特任教授 前田 浩
------	------------	-------	-----------

1. 教育の責任 (何をおこなっているのか／担当授業科目その他)
【春学期】 「基礎演習Ⅰ」 Ⅰ年次 必修 2 単位 「総合英語」 Ⅰ年次 必修 2 単位 「英文法Ⅰ」 Ⅰ年次 選択 2 単位 「英検対策」 Ⅰ年次 選択 2 単位 「短期留学 A」 Ⅰ年次 選択 2 単位 「卒業研究Ⅰ」 2 年次 必修 2 単位 「アカデミック・リーディングⅢ」 2 年次 選択 2 単位 【秋学期】 「基礎演習Ⅱ」 Ⅰ年次 必修 2 単位 「英文法Ⅱ」 Ⅰ年次 選択 2 単位 「日常英語表現 A」 Ⅰ年次 選択 2 単位 「卒業研究Ⅱ」 2 年次 必修 2 単位 【都留文科大学での担当科目】 「English Grammar Ⅰ」 Ⅰ年次 2 単位 「Basic Reading & Writing Ⅰ」 Ⅰ年次 2 単位 「English Grammar Ⅱ」 Ⅰ年次 2 単位 「Basic Reading & Writing Ⅱ」 Ⅰ年次 2 単位

2. 教育の理念・教育目標 (どのような考えに基づいて行っているか)
私は英語教師なので、まず、学生の英語力を高めることを教育目標にしている。学生の語学力を高めるには学生の側のかかりの時間と労力が必要である。したがって、多くの英語の授業で受講生に 2～4 時間程度の予習・復習を課している。その理由は、「学生は無限の能力を持っている。」という考えによる。本学の学生の能力はこの程度だという、いわゆる「アンコンシャスバイアス」を排除した結果である。また、DP に関連しては、「英検対策」、「英文法Ⅰ、Ⅱ」の授業では DPⅠ-3 にみられる「知的好奇心」を、「日常英語表現 A、B」の授業では DPⅠ-2 にみられる「知的好奇心」を満足させる授業を展開している。さらに、「英文法Ⅰ、Ⅱ」の授業では DP2-2 にみられる「思考力」、特に「論理的思考力」を養う授業を展開している。

3. 教育の方法 (その考えをどうやって実現しているか/実践の工夫)
多くの英語の授業で、受講生に 2～4 時間程度の予習・復習、小テスト、中間テスト、定期試験[場合によ

って口頭試験]を課し、学習内容の定着を図っている。2025 年度から「英検対策」の授業で、予習課題のプリントを配布し、何を予習して来るかをわかり易く提示することを始めた。また、授業の双方向性またはアクティブラーニングの観点から、授業は受講生を指名してコミュニケーションを図りながら展開している。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうなったか/結果と評価）

2025 年度新島学園短期大学春学期・秋学期授業アンケート結果から、本学では予習・復習時間が1時間にも満たない授業が多くある中、私の英語の授業 6 科目に関する受講生の予習・復習時間は 1.08～4 時間で、平均で 2.1 時間であった。当然、予習復習をすればする分だけ英語力は身につけていると考えられる。また、自由記述のコメントを見ても、ほとんど否定的なコメントはなく、肯定的なコメントが多く寄せられた。しかしながら、学習成果の項目に関しては、どの科目も 4 以上を得ており大きな問題はないと考えられるが、全授業の平均を下回っている場合が多かった。私の経験から、厳しい授業は概して数値が下がる傾向があると感じており、数値結果は謙虚に受け止めるが、このような要因であると分析される。

根拠資料は下記の通りである。

- ・2025 年度新島学園短期大学春学期授業アンケート結果
- ・2025 年度新島学園短期大学秋学期授業アンケート結果

5. 今後の目標（今後どうするか）

前項の結果から、授業に関して大きな問題はないと考えられるが、授業を行うに際してさらなる工夫を重ねたい。具体的には、「英検対策」の授業で導入した、予習課題のプリントを「アカデミック・リーディングⅡ」の授業でも導入したいと考えている。また、「英文法Ⅰ、Ⅱ」の授業でも、復習として練習問題を数多く行う課題を課すことを考えている。

6. 根拠資料

- ・2025 年度学生便覧 カリキュラム表
- ・2025 年度新島学園短期大学春学期授業アンケート結果
- ・2025 年度新島学園短期大学秋学期授業アンケート結果